

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073600423		
法人名	医療法人 聖恵会		
事業所名	グループホーム 安居		
所在地	〒811-3105 福岡県古賀市鹿部485番地1	092-942-6363	
自己評価作成日	平成24年 6月 8日	評価結果確定日	平成24年07月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 24年06月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホーム安居は、平成17年2月に開設し、8年目に入りました。「ぬくもりのある第二の我が家」を運営の基本方針に掲げ、認知症の方が、安心して暮らしていけるよう、職員一同支援しています。病院が敷地内に併設しており、開設当初より看取りケアを指針に盛り込んでおり、実際に1例の方の看取りケアをしました。ご本人が、「どうありがたいか」という思いと関わっていく中で、ご本人が満足されることが、職員のやりがいに繋がることを実感しました。ここからのニーズとして、看取りケアが高まっていくなか、最期まであきらめずに、ご本人の思いを大切に、ご希望を叶えられるホームでありたいと願っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道3号線沿いに、母体医療法人併設の、平屋建て2ユニットのグループホーム「安居(あんご)」がある。広い敷地の中は自然が溢れ、鶯の囀りが心地よい場所に、四季折々の花や木々に囲まれている。玄関を入ると、木を使った温もりのある雰囲気、リビングからは、利用者や職員の会話と笑い声が聞こえ、微笑ましい風景である。ホーム独自の理念を毎日唱和し、確認しながら日々の介護に取り組む職員は、利用者一人ひとりに合わせたサービスを提供し、家族からの信頼は、深いものがある。併設病院と連携し、利用者や家族の希望に応える支援は、看取りの介護へと進み、いつまでも安心して暮らすことが出来る体制を確立している。また、地域との交流も活発で、保育園児の年4回の訪問と、芋掘りを利用者と一緒にする光景は、利用者が昔に戻れる瞬間でもある。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-) です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に理念唱和を行い共有し、また意識を高め日々の実践につなげている。理念について全体カンファで学ぶ機会を設け理解を深めるような取り組みも行っている。	ホーム独自の理念を掲げ、毎日唱和を行っている。また、全体カンファレンスで理念について、一つひとつ深く掘り下げ、全員で話し合う取り組みを設け、職員間の理解を深め、共有し、実践に向けて取り組んでいる。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月調理のボランティアや定期的な保育園児との交流、地区の老人会への参加また事業所の催事に地域の方を招待するなど交流している。	運営推進会議メンバーの情報提供や協力で、地区の老人会や公民館活動に参加している。また、芋掘り等、保育園児との年4回の交流や地域介護予防教室の開催等、地域との繋がりを深める努力を積極的に行っている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の公民館で「認知症」についての講座を開催したり、来訪時など理解や支援が深まるような対応を行っている。	
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告を行い意見を頂きながらサービス向上に活かしている。次回の行事や活動計画なども説明し協力をお願いしている。	会議は2ヶ月に1度定期的に行われ、家族が2名ずつ交代で参加し、区長、民生委員、行政職員がメンバーとなり、情報提供、意見交換を活発に行っている。出された意見を出来るだけ運営に反映する等、会議を活かした柔軟な取り組みがある。
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を活かして事業所の取り組み状況や実情を伝えながら協力関係を築いている。	行政の協力を得て、「ネットワークひだまりの会」を立ち上げて3年目になる。事業所間の情報交換や交流の輪が広がり、地域の中でのグループホームの役割について話し合う等、活発な活動と共に行政との連携が始まっている。
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	病院での研修会や全体カンファで学び理解を深め、常に意識を持ちながらケアに取り組んでいる。玄関は利用者様の安全配慮のため施錠している。(3号線に接しているため)	身体拘束廃止のための研修に参加し、職員は、拘束によって利用者にも及ぼす影響を理解した上で、身体拘束をしないための取り組みを実践している。また、玄関の鍵は、利用者の安全面に配慮し、家族の了解を得て施錠しているが中庭には自由に出入り出来る。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体カンファで学ぶ機会を持ち、常に注意をしてケアに取り組む、また職員間でも意見交換を行うなど注意を払い防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体カンファで定期的に学ぶ機会を持ち、必要性や活用の仕方を学び、支援できるような取り組みを行っている。	制度の資料やパンフレットを用意し、定期的な研修で制度について学び、理解した上で、入居時に家族に説明したり、利用者や家族が必要とする時、いつでも制度を活用出来るための支援体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や契約時に詳細に十分な説明を行い理解・納得を頂いている。また、年間行事に合わせてご家族に集まっていただき、家族会を開き、改定の内容説明を行った。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議参加時や日々の面会時またケアカンファレンス等において利用者・ご家族の意見や要望を伺い反映している。また、ご家族への満足度調査も行っている	職員は常に利用者に寄り添い、意向や思いを把握するよう努めている。また、家族面会時、運営推進会議等で、家族の希望を聴いている。行事を兼ねた家族会の開催、家族への満足度調査等、家族の心配事や悩みを表せる機会を設け、ホーム運営に反映させている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時に意見や提案を個別に聞いたり、全体カンファで検討する機会を持ち、常に反映させている。	日常的な会話や、ミニカンファの中で、常に意見や気づきを言い合える環境である。また、毎月定期的に職員会議を開き、運営や介護に関して活発な討議をし、速やかに改善を行い、より質の高い介護を目指す努力をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況を把握し、資格の取得や講習会参加の折には勤務調整を行うなど向上心を持って働けるよう職場環境の整備を行っている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢などを理由に排除することなく幅広く採用している。新卒採用も入れながら個々の能力が發揮でき生き生きと勤務できるよう配慮している。	職員採用は、年齢性別の制限はなく、19歳から70歳の幅広い年齢層の職員一人ひとりの能力を發揮出来る職場環境を目指している。また、職員ロッカー、休憩室を整備し、研修や資格取得の後押しをする等、職員が向上心を持って生き生きと勤務出来るよう配慮している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習会への参加や資料を配布したり全体カンファで学ぶ機会を頻回に持ちながら取り組みをしている。	職員は利用者の人格を尊重し、優しい声かけや見守りで寄り添い、尊厳をもった介護サービスの提供を目指している。また、外部の人権研修に参加し、全体カンファレンスで必ず振り返りを行い、職員一人ひとりが理解した上で、人権教育啓発活動に取り組んでいる。	
15		代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のケアに対して随時意見・指導を行っている。また個々に研修会に参加できる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に地域のネットワークでの講習会に参加し、交流を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを傾聴する機会を意識的に設け、信頼し安心できる関係を築いている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時やケアカンファレンス・電話などで状況報告を密に行いながら家族の思いを聞けるような関係を築いている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を把握し、その時必要な支援を見極めるトレーニングを行っている。支援の方法は一つでないことを職員共通で認識している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生きてきたこれまでを尊重し、共有することで、受身の介護ではなく、日常生活の延長としてのグループホーム本来の活動を行っている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に本人と家族をつなぐ立場であることを意識し、絆を深めながら共に支援している。また家族の協力が自然な形で得られるよう配慮している。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の意向に沿いながら馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。	馴染みの美容室への同行、専門医受診等、利用者の希望を聴き、家族の協力を得て実施している。また、老人会活動の中での友人との交流、牛乳を定期的に売店に買いに行く事等、馴染みの関係の継続に努めている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	さりげなく間に入り込む配慮を行い、ご利用者同士楽しく過ごせるよう支援している。又共に支えあう関係を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	母体病院への入院の場合などは来所していただいたりと関係が継続できるようフォローしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族を通して希望や意向の把握を行っている。	職員は出来るだけ利用者に寄り添い、会話や仕草、表情等から、利用者の思いや意向の把握に努めている。また、意向表出の困難な利用者に対しては、センター方式によるアセスメントや家族に相談しながら把握できる努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時センター方式を用いて情報を提供していただいたり、面会を利用し会話する機会を増やしたり、これまでの過ごし方などを把握するよう努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりを通し過ごし方やできることなどを把握している。職員同士の申し送りや記録からも把握に努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング時や状態の変化に応じプランを見直し話し合いを行いながら意見を反映させ、常に現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、利用者や家族の意見を担当者会議で聴きながら、関係者で相談し、3ヶ月毎に作成している。また、利用者の急変時には、家族と連絡を取り、その都度介護計画の見直しを図っている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録やケアの実施をチェック表で管理し毎月評価を行い、結果・気づきなどの情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況やその時々ニーズの変化に伴い、柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区公民館での活動や保育園児との交流会・ボランティアによる催事、中・高生の体験学習なども取り入れるなど、心身共に自分の力を発揮し、楽しく暮らしていけるよう支援している。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力を得ながらかかりつけ医・専門医の受診ができている。必要時は職員が付き添い、かかりつけ医・専門医受診の支援をしている。	母体医療法人による万全な医療体制と、常勤看護師や介護職員によるきめ細かな見守りと判断で、利用者の健康管理は充実している。また、皮膚科や眼科等の専門医の受診は、家族の協力を得ながら行っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や急変時は気づき情報などを看護職へ報告し、連絡を密にとりながら適切な受診看護を受けていただいている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が医療機関と情報交換や相談に努め、連絡を密に取るなど関係作りを行っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前家族の終末期に向けての意向に沿う支援ができた。今後も早い段階で話し合いを持ち方針を共有し、状態変化時は関係機関の迅速な協力が得られ共に支援ができるよう努めている。	重度化した場合、併設病院と連携を図りながら、家族、関係者で話し合いを重ね、方針を全員で共有し、看取りに向けた取り組みを実践している。また、これまでの看取りの経験を踏まえ、利用者の重度化に向けた支援体制と家族の協力体制の確立を目指している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急・急変時のマニュアルに沿い対応を行っている。振り返りを次へ活かし実践力を身につけている。定期的に消防署の協力を得て、救急救命のトレーニングを受けている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災講習会に参加したり避難訓練を実施し、対応や手順誘導時の留意点の見直しや再確認を行っている。関係機関や地域との協力体制も築いている。	消防署の協力で、年2回と法人全体での避難訓練を実施し、ホーム独自で夜間を想定した訓練を行っている。併設病院職員との協力体制をマニュアル化し、全員で共有し、いざという時の備えを万全なものにしている。また、非常食をホーム独自で備蓄することを検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重しプライバシーに配慮した対応を行っている。接遇マナー研修会に参加した資料を配布し全体で勉強会を設けるなど、意識を高め言葉かけの改善を行ったっている。	職員は、人権尊重やプライバシーに関しての接遇研修を受講し、利用者一人ひとりのプライドを傷つけない介護サービスの提供を目指している。また、個人情報の資料は鍵のかかるロッカーで厳重に保管されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴し受容するなど関わりを深めることで、思いを表出し自己決定できるよう働きかけをしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの生活歴や情報に沿いまた日々の関わりを通して、一人ひとりのペースを把握しながら支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みにあわせ洋服を選んだり、ネイルを楽しんでもらったり、なじみのある髪型など、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根とりや玉ねぎの皮むきなど下準備や米とぎ・コップ洗い・つぎわけ・配膳・下膳など一人ひとりできる力を活かし、一緒にいき、また食材や献立など話題を提供しながら楽しみなものになるよう支援している。	食事は、利用者の力や気分を見極めながら、下準備や配膳、下膳等を手伝ってもらい、職員が交代で調理している。食材の野菜のこと、献立の内容等を話しながら、利用者の食べる意欲を引き出し、利用者と職員と一緒に楽しそうに食べる様子は大家族のようで、見ていて微笑ましい。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理士の献立でバランスのとれた食事を提供し、食事・水分摂取量を随時確認し、必要量確保できるよう支援している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔内の状態に応じ支援し、口腔内の清潔保持ができていないか確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間毎のさりげない誘導でトイレでの排泄や排泄の自立が維持できるよう工夫している。	管理者、職員は排泄の自立を目指し、優しい声かけや誘導で、出来るだけトイレでの排泄を支援している。「座ると出ます」という利用者の言葉もあり、入居時紙おむつだった利用者が布パンツに変更になる等、利用者の自信回復に繋がっている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握して、個々に歩くことや腹部マッサージを行うなど取り組んでいる。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気分よく入浴できるようタイミングを図り支援している。時間などは一人ひとりの希望に沿うよう努めている。	入浴は基本的には1日おきだが、毎日入浴する方、一番風呂を好まれる方等、利用者の希望を優先している。また、利用者の状態に合わせて、気分を見ながら声掛けを工夫し、楽しい入浴になるよう支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は個々の習慣や身体状況にあわせ居室で足を伸ばしゆっくりと休息の時間をとっていただくよう支援している。日中軽体操を行ったり散歩して外気にふれるなど安眠できるような工夫を行っている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	二人で声出し確認を行い安全な服薬支援を行っている。個々の薬を理解し症状の変化を注意深く確認・報告を行っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かし、馴染みのある家事のお手伝いや、コーヒーやお茶、また音楽をかけた季節のお花を飾ったりなど楽しみごとをつくり、気分転換の支援をしている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭や付近の散歩は希望に沿いいつでもできるよう支援している。外食会や季節ごとのお花見など家族の協力を得ながら出かけられるよう支援している。	天気の良い日は、職員と一緒に広い中庭を散歩したり、遊歩道を通って菜園に行き花を摘む等、ゆっくり戸外での時間を過ごしている。また、季節毎のお花見や買い物、外食等は、家族の協力を得ながら行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで不穩になられたりすることもあり、基本所持されていない。必要な場合は、預かり金から支出できるようになっている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙の受け取り、電話の受信又ご本人からの手紙、電話の発信には、職員が間接的に携わり援助している。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のリビングでは家族持参の季節の花を飾り、音楽をかけたりと生活感や季節感が感じられ居心地よく過ごせるよう支援している。	鶯の鳴き声や季節の草花に囲まれ、玄関を一步入ると、紫陽花とお香の香りが迎え入れてくれる。屋内には、家族が定期的に持参される生花があちらこちらに生けられ、木をふんだんに使った和風の落ち着いた趣と清潔感で、居心地良く暮らせる共用空間になっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でゆっくりと過ごせたり数名で談話を楽しんだり、思い思いに過ごせるような居場所になるように工夫している。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたテーブル・椅子・タンスなどが置かれ、また家族との思い出の写真・プレゼントなど家族と相談しながら居心地よく過ごせるよう支援している。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーは、当然の事、リビング・廊下・トイレなど手すりを備えており廊下も広くとり安全面にも十分な配慮を行い、できるだけ自立した生活が送れるよう支援している。		